

「子育て世代と支援者のための防災講演会」 GW 記録

NPO 法人こそだてシップ

開催：令和元年6月30日（日）10：00～13：00

会場：大船渡シーパル

主催：NPO 法人こそだてシップ

共催：大船渡市社会福祉協議会

【Gwの共通テーマ】 → 「今日の学び、今日からできること」

◆A グループ

- ・ソーラー、バッテリー、水、給水袋の備え
- ・地元、地域の人との日ごろからの交流、ネットワーク
- ・非常用物品の点検、充電時間等、経過したら定期的に点検確認が必要
- ・スマホで「ラジコ」というアプリ等を入れておく
- ・情報収集手段を日ごろから確保する
- ・有事の際の子供の避難場所、情報の拠点となるところはどこなのか
- ・一次避難、二次避難所確保、周知が必要

◆B グループ

- ・長岡市のように大船渡にもハザードマップが欲しい
- ・(長岡市のような) 安心カードのようなものがあるといい
- ・家族での話し合い大切
- ・近所とのつながりが大事
- ・アウトドアグッズを活用する
- ・避難所での女性や子供の対応について
- ・家に避難している人への支援
- ・名簿→移動したときの対応も
- ・子供連れの人々の名簿があってもいいのでは
- ・違う市から来た人が支援物資をもらえないのは困る（避難所にもよる）

◆C グループ

- ・備えの大切さを再確認、帰りにホームマックに寄ろう
- ・ハザードマップの確認は必要
- ・「常にしていないことは非常時にはできない」
- ・非常持ち出し袋の置き場、ゼロ次の備品は同じ場所に置こうと思った
- ・備品の中身の再確認、補充をしなければ！
- ・常に持っていれば防災グッズになるものをカバンに入れておこうと思った
- ・家族会議をしよう

◆D グループ

- ・災害から時間がたってから備えができるようになった
- ・災害時に備えていても荷物が持ちきれないこともあるため最低限のものを準備
- ・緊急避難場所を家族で確認すべき
- ・荷物を下に置かない
- ・NHK アプリ、Yahoo! アプリの情報が一番早い=24時間体制のものは強い
- ・ガソリンが半分になったら入れておく
- ・停電したときはラジオ
- ・Twitter 内閣府のフォロー
- ・備蓄物は日を決めてチェックし、非常食は消費期限が過ぎたら子供と楽しく食べる
- ・ハンカチをつなぎあわせ活用する
- ・車に避難物品を積んでおく
- ・決まった場所に置き、見取り図を描いて逃げるルートに荷物を置いておく
- ・0次持ち出し品の準備

◆E グループ

- ・早足散歩のコースを作り実際に散歩する
- ・転勤族は土地勘がないので防災カフェの利用をしたり、地元の人に聞いたりすることで詳細な情報を得ることができる
- ・おんぶや抱っこの練習を日ごろからする
- ・非常用品をもって逃げられるよう中身を確認する

【ママたちからの質問】

- ・哺乳瓶でミルクを作る際 70℃のお湯で溶かし、ペットボトルの水で薄めるのは問題ないか → 持ち帰り、後日回答致します (小林講師)
- ・1次、2次の線引きはどう考えればよいか
→